

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年3月20日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2870700420		
法人名	社会福祉法人きたはりま福祉会		
事業所名	フレール離宮西町		
所在地	神戸市須磨区離宮西町2丁目2番3号 (電話)078-731-4164		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	平成20年4月8日

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は幹線道路に面しており都市部に位置する市営住宅型のグループホームだが、周辺に離宮公園があり、四季の変化が感じられる緑に恵まれた環境も整っている。職員は毎月の行事や楽しみ事の提供に積極的で、家族参加の機会も多く協力も得ている。今後も入居者の関心のある事や力量を見極めながら、入居者一人ひとりが、その人らしく楽しく過ごし、張りのある暮らしが継続できるよう支援していく事を期待する。職員育成は個々の職員の目標設定と学びたい事の把握により研修の充実を図り、内部研修は研修計画をもとに定期的実施し、外部研修は力量や段階に応じた受講を支援する事で、一人ひとりの職員のモチベーションを高め資質向上へとつなげている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	評価の意義や活用については職員に説明し理解が得られている。前回評価結果の検討後、研修計画策定のもと研修を実施し、外部研修は報告書をもとに伝達研修を行うよう取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は管理者と主任の話し合いの中で取り組んでいった。今後は職員一人ひとりが自己評価の目的や意義を理解し、評価項目ごとに個々が確認し、日々のケアの見直しや振り返りに活かしていく事が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	2・3ヶ月に1回の開催である。ホームの現状・第三者評価への取り組み・地域との交流等について話し合うとともに、参加メンバーからの現状報告等もある。参加者が意見や要望等を提案しやすいよう働きかけ、会議の結果は家族会で報告している。ホームは神戸市の所管の為、常に連携が取れている。運営推進会議に地域包括職員の参加があり定期的な情報交換が継続している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	毎月の「フレール便り」で入居者の暮らしの様子を家族に伝えている。面会時に担当職員が入居者の状況を伝え、担当職員不在時でも、どの職員も家族への伝達が徹底できる為の工夫がある。運営推進会議や家族会で意見や要望を話し合うとともに、管理者へ面談や電話の他にメールで家族の意向を伝え、内容について検討し運営面に活かしていく取り組みもある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	小学校の運動会・音楽会、地域の催しのとんど・盆踊り等への参加がある。併設の特別養護老人ホームの行事にホーム入居者が参加し、地域住民との交流の機会がある。今後は入居者の心身の状態に配慮しながら、地域住民に対してホーム内行事等への参加の働きかけを期待する。

### 【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	36647		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6,6

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	3~4	階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	市営住宅のため応能負担	その他の経費(月額)	1,500 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	870 円	

#### (4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	12 名	男性 名	女性 12 名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 87,0 歳	最低 72,7 歳	最高 99,2 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村海浜病院
---------	--------

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をグループホームの理念として、地域との連携のもと家庭的な雰囲気の中、本人主体でその人らしい生活を送る事を目指している。		地域密着型サービスとしてホームの目指す方向性について話し合い、職員自身の言葉で具体的に理念を表現していく事を期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常のケアの中で理念を具体化していくためにその都度話し合っている。法人全体では新人研修で理念を理解する為の指導を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会・音楽会、地域の催しのとんど・盆踊り等への参加がある。併設施設の特別養護老人ホームの行事にホーム入居者が参加し、地域住民との交流の機会がある。		立地条件・他の諸問題があると思われるが、入居者の心身の状態に配慮しながら、地域住民に対してホーム内行事等への参加の働きかけを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や活用については職員に理解が得られるよう説明している。前回評価結果の検討後、研修計画策定のもと研修を実施し、外部研修は報告書をもとに伝達研修を行うよう取り組んでいる。自己評価は管理者と主任の話し合いの中で取り組んでいった。		職員一人ひとりが自己評価の目的や意義を理解し、評価項目ごとに個々が確認し、日々のケアの見直しや振り返りに活かしていく事が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2・3ヶ月に1回開催している。ホームの現状・第三者評価への取り組み・地域との交流について話し合うとともに、参加メンバーからの現状報告等も行っている。参加者の中からの意見や要望が引き出せるよう働きかけている。会議の結果は家族会で報告している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームが神戸市の所管である為、常に連携が取れており、定期的な報告も行っている。運営推進会議に地域包括職員の参加があり定期的な交流が継続している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>担当職員・主任が中心になって入居者の暮らしの様子を知らせる為に、月に1回「フレール便り」を作成し家族に配布している。面会時に主に担当職員が入居者の状況を伝えるよう努め、担当職員が不在の場合でも、どの職員も伝達が徹底できるような工夫も見られる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にホーム内の苦情相談窓口や外部の相談窓口を明示し家族へ説明している。運営推進会議や家族会で意見・要望を聞く機会があるとともに、管理者のメールアドレスを公表し気軽に家族の意向が伝えられるよう配慮している。出された意見等は主任・職員に回覧し検討され運営面に活かしていけるよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新任職員の紹介や職員の異動については状況に応じてホーム新聞に掲載する等家族へ伝えている。法人内での異動はなるべく行わないよう努めている。やむを得ない異動や離職の場合は入居者への配慮の為に担当職員の配置の工夫等行っているが、入居者・家族の不安や不満の解消への対応としてはまだ不十分な状況である。</p>		<p>今後も職員の面談の機会等でストレスの軽減に努めるなど離職を少なくする為の取り組みが望まれるとともに、離職や異動による入居者や家族へのダメージへの配慮について改善策を検討していく事を期待する。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課制度の導入により職員の目標の設定と学びたい事を把握し、研修の機会を確保する事で職員の資質向上に努めている。内部研修は研修計画を策定し3ヶ月に1回程度実施している。外部研修は職員の力量や段階に応じて受講できるよう支援し、参加者によるホーム内勉強会の実施により情報共有している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は地域内の事業所間での交流に対する積極的な働きかけはない。</p>		<p>事業所のサービスの質の向上のために、事業所間でのネットワーク作りが望まれるとともに、職員のモチベーションアップの為にも他事業所職員との交流の機会を作っていく事を期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族と面接し意向や要望を把握するよう努め、希望があればホーム見学ができるよう配慮している。入居初めはできる限り今までの生活習慣を大切にしていこう取り組んでいる。段階的にホームの生活に馴染んでいけるよう家族や知人等の協力を得て支援している。</p>		
<p><b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの行事等の中で職員は入居者とともに楽しみの時間を共有し、個々の入居者の視点に立って、本人の気持ちに沿った参加への働きかけを行っている。入居者の得意な事や力量を踏まえたうえで、職員が教えてもらった学んだりする姿勢も大切にしている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族から今までの生活歴や関心事・身体状況等を聞きケアチェック表を個々に作成し、ホームでの暮らしが本人主体になるよう職員間で情報を共有していくよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意見やケアチェック表等を参考にアセスメントしニーズに沿って計画の原案を作成し、カンファレンスにて職員間で検討の後、計画作成担当者が介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、状態の変化や家族からの要望があれば随時、定期的には6ヶ月に1回の見直しを行っている。カンファレンス内でケアチェック表をもとに振り返り再アセスメントし検討している。毎月担当者が本人の状況の振り返りを行い記録に残し、介護計画の評価の参考にしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を導入している。入退院時の送迎や入院時の洗濯物への支援は希望があれば配慮している。かかりつけ医への送迎は家族の状況に応じて支援していくよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科・眼科・歯科などの提携医の定期的な往診体制があるとともに、併設施設の常勤看護師の巡回派遣にて日々の健康管理を行っている。ホームの提携医はあるが本人・家族の希望があれば、かかりつけ医への受診も可能で送迎についての支援がある。かかりつけ医への受診の際は本人の現状を伝え、受診後も結果を把握するよう努め情報の共有を図っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制を導入し重度化に対するホームの指針を文書化し家族に説明・同意を得ている。家族会等でターミナルについての対応を家族と話し合う機会はあるが、職員間での十分な話し合いまでには至っていない。</p>		<p>入居者の重度化に伴い、家族の思いの変化にそって段階的に話し合っていくとの方針である。職員間の方針の統一のために研修の実施が望まれる。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりを尊重し、その人にあった言葉かけやさりげない介助に努めている。秘密保持については契約書等に明記し家族に説明している。個人情報保護については職員や関わりのある業者と誓約書を交わし守秘義務の徹底を図っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはあるが個々の入居者の生活歴を把握し、本人のペースにそえるよう配慮している。食事時間や食器洗いの順番など家事の分担は、本人の望んでいる状況の中で見守りやさりげなく手助けする等支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者委託で調理済みの状態で搬入されているが、定期的開催される給食会議や献立会議にて気付きや要望等を話し合っている。配膳や後片付けは入居者個々の思いに沿って手伝ってもらうよう取り組んでいる。職員も一緒に食事をしながら楽しく語り合えるよう配慮し、食べこぼし等さりげなくサポートしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	フロアー間で工夫し入居者が毎日入浴できるよう配慮している。入浴時間の決まりはあるが、その中で希望に沿えるよう支援している。夜間入浴は要望があれば対応を検討する姿勢だが、現在は希望者がいない状況である。入浴介助についてはプライバシーに配慮し気持ちに沿った対応を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内行事やレクリエーションを実施するにあたって、入居者一人ひとりの関心や習慣を把握し、本人の視点での楽しみや気晴らしとなるよう編物・詩吟・はり絵・歌を歌う・ボール遊び等の場面を提供し支援している。ホーム内の役割についても、個々の生活歴や力量に沿った働きかけを行っている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて地域行事への参加や買物等、年間を通じて外出の機会の工夫はあるが、ホーム周辺は坂が多く、近くを国道が走っている事もあり、気軽な外出が難しい状況である。		家族会等で外出について家族の意向を聞く機会を作り、ホームや入居者の現状について話し合うとともに、職員の勤務体制への工夫や家族の協力を得る等改善策を検討していくことを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・エレベーターは日中は施錠なしで、ベランダの施錠もなく居室からの出入りは可能である。職員の見守りと玄関ブザーの確認により入居者の安全面に配慮している。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定も考慮した消防訓練を年に2回実施し、入居者の避難について具体的な避難対策を検討している。災害に備えた非常食の備蓄がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は記録し、給食会議や献立会議を活用し献立への希望や嗜好への配慮、入居者の状態に応じたミキサー食・きざみ食への対応等適宜支援している。水分摂取に関しては個々の入居者の大まかな把握があり必要に応じては記録に残している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ゆったりとしたリビングの窓からは青い海や公園の緑を眺める事ができ、自然の風や光の中で入居者が穏かに過ごせるようカーテンでの調整や換気等を適宜行っている。共有空間には畳のコーナーがあり、各箇所に椅子を設置し、入居者はテーブルを囲んで話し合ったり、一人で休憩したりと思いつくついでいる。季節を感じさせる装飾品や入居者の写真等をさりげなく掲示することで家庭的な雰囲気を工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳やフローリングの居室には洗面所やトイレの設置がありプライバシーへの配慮がある。使い慣れた家具・装飾品を持ち込むよう支援し、居室の整理は本人の希望に沿うよう努めている。</p>		

は、重点項目。